

阿南支援学校ひわさ分校 令和7年度学校評価

重点課題1 安心・安全な学校づくり

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
				学校関係者の意見	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
【重点課題1】 各種の災害に備える 防災対策の充実	【環境課】 地域や行政と連携した避難訓練を実施し、防災対策の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	承認いただいた。 地域との連携は深めておく方がよい。地域の指定避難所にはなっていないとはいえ、想定して情報の共有をしておく必要はある。防災マップやハザードマップの確認も定期的にしておく方がよい。 消火器訓練で期限切れになった消化器を使ってみてはどうか。
		①大規模災害に備えて地域と合同の避難訓練を1回以上実施する。	①1度の実施をし、達成とする。	A (所見) ・避難訓練の持ち方や内容については、児童生徒の実態や自主的な活動に合わせて、変更を行った。	
		②地震・火災・土砂災害の防災訓練を年4回以上実施し、事後アンケート結果を元に見直しが必要な箇所については、その都度話し合い、結果を全体に周知する。	②4回の避難訓練を行い、達成とする。次回も設定済み。		
		③防災について児童生徒主体で行える活動（消火訓練、起震車体験等）を2回以上計画実施する。	③児童生徒が活動する活動として、消火器消火訓練を1回、起震車体験を1回実施し、達成とする。		
		④防災食を使用した防災給食を実施する。	④1度の実施をし、達成とする。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
①地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画・実施する。（9月）	①町内一斉地震避難訓練に参加する形で本校の避難訓練を実施した。（9月）				
②年4回の避難訓練を計画・実施・事後アンケートを行う。事後アンケートをもとに、改善点を話し合い、結果を全体に周知する。（5・9・11・2月）また新規赴任者向けに研修を行う。	②都度見直しを行いつつ、予定通り実施中である。（5・9・11・2月）新規赴任者向けの避難の手順や役割についての研修は、新規赴任者研修期間に実施した。（4月）				
③課会で本年度行う活動を決定する。関係機関等と連絡を取り合いながら計画実施する。（11月、1月）	③児童生徒が自発的に参加できる活動として、消火器消火訓練（11月）と起震車体験（1月）を実施した。				
④課内外と連携をとって計画実施する。事前に保護者等にアンケートをとり、食物アレルギーに留意して準備を行う。（5月）	④第1回避難訓練とあわせて実施した。アレルギーに配慮しつつ、給食の代わりに防災食を食べる体験をした。（5月）				
【重点課題1】 児童生徒が安心して通うことができる学校づくり	【生活課】 児童生徒が安心して学校に通うことができるよう、不審者侵入時の対応を見直す。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	承認いただいた。 次年度への課題として、不審者侵入場所や侵入の時間、教員の配置等を年度ごとに変更し、様々なパターンを想定して訓練を実施する必要があることがわかった。今後の方策として、次年度以降も地域の警察署の方と連携を図りながら訓練を積み重ね、緊急時に、生徒と教員の命を守る行動が適切にできるようにしていきたいと考える。
		①不審者侵入対応訓練を実施し、訓練後、実施方法やマニュアルの見直しを行い、職員会議にて、周知を行う。	①生活課の課会にて、不審者侵入対応マニュアルの見直しを行い、運営委員会にて提案し、内容を精選し、職員会議にて周知を図り、承認を得た。	A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		①-1 不審者侵入対応実施において、学校の安全体制を確認し、必要な場合は、安全対策を行う。	①-1 校内の安全確認を行い、生徒玄関が常時間開いている状態であることがわかったので、簡易な内鍵を設置した。	校内の安全対策（不審者）について生活課の中で話し合い、校内の門扉、玄関の鍵等の施錠状況等について再確認し、対策を行うことができた。また、不審者対応マニュアルについても見直しを行い、改善を図ることができた。不審者侵入対応訓練実施後、地域の警察署の方にご助言頂き、職員へのアンケートを実施し、次年度に向けて訓練の見直し、改善を図ることができた。	
①-2 生活課の会にて、訓練のマニュアル等を見直し、改善点について話し合う。生活課の会で話し合った内容を運営委員会にて提案し、マニュアルを改善し、職員会議にて周知し、訓練を実施する。	①-2 生活課会にて、校内の不審者侵入対応マニュアルの見直しと確認を行った。不審者侵入時の対応について、分かりやすく図式化し、関係教員への配付、職員室や通報装置の側へ掲示し、全教員への周知を図った。				
①-3 訓練実施後にアンケートを取る。不審者侵入対応訓練については、地域の警察署の方にご指導を頂き、次年度の実施に向けて改善点を生活課の会にて話し合う。話し合った内容を職員会議にて、周知を図り、学校安全への意識付けを行う。	①-3 訓練実施後、全教員へのアンケートを実施し、対応方法の改善点や今後の訓練内容等についてご意見を頂き、生活課で検討した。課内で話し合った結果、毎年不審者侵入時のパターンを変更しながら実施し、様々なパターンを想定して侵入時の対応を行うこととし、職員会議でも周知を図った。				

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
【重点課題1】 児童生徒、一人一人の人権を尊重した教育の徹底	【生活課】 「校内人権の日」の活動の見直しを行い、児童生徒、教員の人権意識の向上を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 A	承認いただいた。 次年度への課題としては、朝の登校方法によって、挨拶運動に参加できない児童生徒会役員がいたので、実施方法を検討する必要がある。今後、朝の挨拶運動以外の場面で、人権啓発活動が実施できるよう、活動の充実を図っていくようにする必要がある。
		①校内人権の日の活動内容を見直し、新たな活動を設定し、年5回以上の活動を実施する。	①校内人権の日に新たな取り組みとして、児童生徒会役員4名を中心に、「朝の挨拶運動」を15分程度実施した。年間6回（7月、9月、10月、11月、1月、3月）実施予定としており、現在5回実施済。		
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度人権教育主事、児童生徒会役員を中心に、新しく「朝の挨拶運動」を実施した。児童生徒会役員に感想を聞くと、「朝元気な挨拶をすると気持ちがいいです」等、前向きな発言があり、校内での人権啓発活動として実施できてよかった。	
		①-1 校内人権の日の活動の見直しを生活課の課会で行い、新しい活動内容を具体的に話し合い検討する。（5月）	①-1 生活課の課会にて、児童生徒の実態を踏まえて話し合い、新たな取り組みとして、「朝の挨拶運動」を実施することした。		
①-2 課会で話し合った内容を運営委員会にて提案し、承認頂いた後、活動を実施する。（年5回）	②-2 生活課会で挙げた意見を運営委員会、職員会議にて提案し承認を頂いた。年間6回（7月、9月、10月、11月、1月、3月）実施。				
①-3 年度末に生活課の課会にて活動を振り返り、次年度の活動内容を確認する。（1月）	①-3 生活課会で話し合い、次年度も継続して、児童生徒会役員を中心に「朝の挨拶運動」を実施することを確認した。				

重点課題2 多様性を育むキャリア教育の展開				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
自己評価				学校関係者の意見	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
【重点課題2】 児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現	【小中学部】 般化を見据えた目標設定がなされた授業の中で、学習したことが人的、物的環境の変化があった場面においても活かすことができる。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 B	承認いただいた。 般化場面として、学校で別授業への般化場面が多く、家庭、施設等での般化場面は少なかった。学校での学習や指導が学校以外の場面で活かされるよう家庭や施設等での般化は重要であるが、お互いが共通理解をし、指導への協力を得ることが難しかった。また、協力は得られたものの学校と家庭との一貫した指導の難しさがあるという意見も上がった。 今後の方策として、保護者のニーズを聞き取り学校での般化場を増やし、成功例を伝え家庭でも使用可能な教材の提供を行っていく。家庭や施設等での般化場を増やすための具体案をケース会や学部会を通じて話し合っていく。
		①個別の指導計画において、般化場面の後期目標の評価が「達成」または「ほぼ達成」となる割合が学部全体で80%以上となる。	①般化場面の後期目標の評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が87%であった。		
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 小中学部ともに、保護者等のニーズをもとに、個々の児童生徒の実態に応じて、般化を意識した目標設定を行うことができた。目標達成のための手立てを学部全体で共有し、他の教員の意見を参考に修正も行うことができたことにより目標達成率も高かった。	
		②個別の指導計画に関するケース会及び見直しケース会を年間5回以上行う	②ケース会及び見直しケース会を計画通り5回以上行った。		
①-1 保護者懇談等で保護者や本人の将来に向けてのニーズを聞き取り、個別の教育支援計画(支援計画表)に反映させる。（4月）	①-1 各児童の保護者との懇談や家庭訪問を行い、ニーズを聞き取り、個別の教育支援計画に反映させることができた。				
①-2 保護者のニーズに基づいた個別の指導計画の学期目標において、般化を見据えた目標を1個以上設定する。（5月）	①-2 各担任が個別の指導計画の学期目標に般化を見据えた目標を1個以上設定することができた。				
②-1 個別の指導計画に関するケース会で目標達成のための手立ての確認をし、共有する。（5、10月）	②-1 目標達成のための手立てを学部全体で共有し、他の教員の意見を参考に修正も行うことができた。				
②-2 指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図ったりする。（6、12月）	②-2 個別の指導計画の目標に関するケース会及び見直しケース会を行い、学部で共通理解を入れることができた。				
②-3 設定した目標に対する評価を行う。（10、3月）	②-3 前期、後期について目標の評価や反省を部会を通じて行うことができた。				

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
【重点課題2】 卒業後を見据え、それぞれの成長と多様な学びに応じた教育活動の充実	【高等部】 卒業後の生活を見据え、基本的なコミュニケーションスキル（あいさつ・返事・報告・支援要求等）を身につける。	評価指標	①個別の指導計画作成において、前期目標もしくは後期目標にコミュニケーションに関する目標を一人につき1個以上設定し、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が、70%以上となる。	評価指標の達成度	総合評価 B (所見) 卒業後の生活を見据え、基本的なコミュニケーションスキル（あいさつ・返事・報告・支援要請等）について、個別の指導計画に目標を設定して取り組んだ。全体で65個の目標を設定し、達成または「ほぼ達成」となったものは46個で、達成状況は約71%であった。ケース会（前期・後期）や学部会、個別に声かけ等で目標内容や指導の進捗を共有し、必要に応じて検討する機会を持つことができた。一方、年度途中で登校が困難になった生徒や登校が不安定な生徒もおり、指導機会が十分確保できない目標が含まれたことが達成率に影響した。指導できた内容に限って整理すると、達成率は80%を超えており、取組自体は一定の成果が見られた。	承認いただいた。 個々のニーズに応じて、職場開拓や授業の取組が広がったのはよい。 就労支援センターでの情報を活用してみたらよい。
		活動計画	①-1 個別の指導計画の学期目標にコミュニケーションに関する目標を1人1個以上設定する。 ①-2 個別の指導計画の前期目標・後期目標ケース会において、目標と手だてについての情報を共有する。 ①-3 学部会での生徒の状況報告の際に、指導の進捗状況や指導について検討や共通理解を行う機会を各学期1回以上設定する。 ①-4 年度末に目標の評価を行う。	活動計画の実施状況		
【重点課題2】 児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現	【教務課】 個別の指導計画に児童生徒および保護者の教育的ニーズをより効率的に反映させる。	評価指標	①入学前に保護者に記載してもらった学校生活アンケートの見直しを行い、個別の指導計画立案に必要な情報を事前に得られるような様式に改善する。 ②個別の指導計画の様式等の見直しを行い、新たにExcel形式として作成する。	評価指標の達成度	総合評価 A (所見) ただ様式をExcelに変換するだけでなく、個別の支援計画から指導計画を作成する流れを整理できた。また、保護者のニーズを目標に反映させるにあたって、課題検討と改善案を関係する各校務分掌と立てることができた。さらに、この活動計画に関連して、通知表や出席簿、保護者面談の日程などの見直しを行うことができた。	承認していただいた。 生活アンケートは、今年度3月から、個別の指導計画とそれに伴う新システムは次年度から実施となる。スムーズな実施となるようタイミングよく保護者に案内したり、教員に再度説明を行ったりしたい。さらに、不具合がないか確認・修正を行い、「保護者の教育的ニーズを個別の指導計画に効率的に反映させる」システムの定着を図りたい。
		活動計画	①-1 教務課会で改善点を話し合い、たたき台を作成する。(6月) ①-2 たたき台を元に、特別支援課等と検討する。(9月) ①-3 検討結果を反映した学校生活アンケートを完成させる。(11月) ①-4 完成したアンケートを校内で周知し、入学説明会で活用できるようにする。(1月) ②-1 文科省や他校の個別の指導計画様式と比較をしながら、教務課会で改善点を協議する。(6月) ②-2 関係課や管理職で個別の指導計画を検討する会を開催し、改善の方向性を決定する。(8月) ②-3 検討結果を反映した個別の指導計画様式を完成させる。(12月) ②-4 個別の支援計画検討委員会にて、書き方の手引きとの整合性を検討したのち、校内に周知する。(1月)	活動計画の実施状況		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
【重点課題2】 多様性を育むキャリア教育の展開	【環境課】 ICT機器を活用した教育の推進を図るために、タブレットを使った授業の促進や情報モラルに関する教育活動を進める。	評価指標 ①児童生徒に合わせて、タブレットの使い方やZoomやMicrosoft Teams、googleアカウントの使い方等のスキルを身につけることができよう授業の計画実施ができる。年1回以上の授業を実施する。 ②児童生徒に合わせて、情報モラルやネットトラブルについての学習を行い、困った時にはどうすればよいのかロールプレイやワークシートを用いて考えさせる機会を年2回以上設ける。 ③タブレットなどICT機器の使用や授業に導入について、教員向けに希望研修を年1回以上行う。(夏期休暇等) 活動計画 ①学校全体にタブレットを使用し授業の推進を促す。課員を中心に授業計画を立て、年1回以上授業を行うようにする。 ②情報モラル教材の情報を広報したり、ネットトラブルの動画を視聴し、自分が巻き込まれたどうするか等を意見を言ったり、ワークシートに書き込んだりする学習を行う。 ③研修の内容についてアンケートをとり、長期休業中などに年1回以上開催するようにする。	評価指標の達成度 ①各学部において、使用頻度の多いと考えられる児童生徒に対して、各1回以上授業を実施し、達成とする。 ②2度の実施で、達成とする。 ③4回の実施をし、達成とする。 活動計画の実施状況 ①中学部ではタブレットの使用についての授業を、中・高等部ではZoomを利用したりリモート授業をそれぞれ実施した。(7・8月) ②使用頻度の多そうな児童生徒について、実態に合わせて自立活動の授業などで実施した。(7月、1月)生成AIについての研修も実施した。 ③ICT機器の扱いや授業に導入できるアプリの解説について、課員やAIサポーターによる研修を夏季休業中に実施した。(4回)	総合評価 A (所見) 生成AIについての方針が示されたため、そのための研修を追加で行うこととなった。情報モラルについての学習と合わせて、継続して行う必要があると考える。	承認いただいた。	生成AIの使用について教育委員会より方針が出たため、それに沿った手続きと児童生徒・職員への指導・研修を来年度も続けていく必要がある。 継続して指導を行う授業がなく、昼休みや短時間の抜き出しで行っているため、スキルの習得や理解の深まりに懸念がある。 本年度は教員向けの研修をAIサポーターの協力を得て行うことができた。生成AIなど、研修のバリエーションを充実させるために、次年度も協力を得られればと考える。

重点課題3 地域とともにある学校づくり

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
【重点課題3】 地域交流及び地域貢献活動の展開	【小中学部】 近隣の学校等と交流及び共同学習を行い、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む。	評価指標 ①交流及び共同学習を2校(日和佐小学校・日和佐中学校)に対して、各校1回以上実施する。 ②阿南支援学校と小、中学部ともに学年間で交流及び共同学習を1回以上実施する 活動計画 ①-1 交流及び共同学習の担当者同士の事前打ち合わせを行い、当日の活動や両校児童生徒の関わりがスムーズに適切に行われるようにする。 ①-2 活動計画、内容及び交流の目的を学部全体で共有する(交流を実施する前月) ②-1 児童生徒の実態、学校での様子等を両校で伝え合い、実態に応じた活動計画を立て実施する。(交流実施月) ①②事後学習や作品交流等、交流後も継続して交流校との接点を持つような活動を計画し実施する。(交流実施後)	評価指標の達成度 ①2校に対して、交流及び共同学習を1回ずつ実施した。 日和佐小学校…1回 日和佐中学校…1回 ②阿南支援学校本校との交流及び共同学習を小学部、中学部ともに1回実施することができた。 活動計画の実施状況 ①-1 5月に日和小学校と日和佐中学校にて事前打ち合わせを行った。交流までの間、電話連絡やメールでやりとりを行い準備をすすめてきた。 ①-2 担当教員を中心に、学部会を通じて話し合いをし学部全体で共有することができた。 ②-1 お互いの学校の中で授業で行っているゲーム等を取り入れて実施することができた。 ①②交流後にお礼の手紙のやりとりをしたり授業で作った手工芸品を贈ったりすることができた。	総合評価 A (所見) 評価指標に上げた内容を達成することができ、それにとりもなう活動計画もスムーズに行うことができた。 交流校との事前の打ち合わせ等も担当教員を通じてすすめることができた。各校で行っている授業内容を活動に取り入れることで児童生徒の実態に応じた活動を行うことができた。	承認いただいた。	【課題】 交流及び共同学習を行う上で、学校同士の日程調整や移動距離等の問題で、年度内に複数回実施することが難しい状況である。そのことで、活動内容がどちらかの学校に偏った内容になってしまったり、課題点が上がっても来年度に持ち越されてしまったりする。 【方策】 近隣校においては交流回数について検討を行う。 少ない実施回数でも充実できるように、両校が交流及び共同学習に対しての目的や意義をしっかりと持ち、共通理解しその上で活動内容を検討していく。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
【重点課題3】 地域交流及び地域貢献活動の展開	【高等部】 地域貢献活動を通して、社会性を養い、継続して地域とのつながりを持ち、地域への理解啓発につなげる。	評価指標	①地域貢献活動を年間4回実施する。	評価指標の達成度	総合評価 A	承認いただいた。 次年度は、回数達成に加えて「生徒に何を身につけさせたか」が見えやすくなるようにしたい。そのために、活動の役割を段階化し、挨拶・報告・安全意識など評価しやすいポイントを決めて指導と評価をつなげる。参加が難しい生徒には、準備や記録（HP記事づくり等）など関わり方を用意し、実態に応じて無理なく参加できる形を整えたい。
		②地域貢献活動で実施した内容を年間4回HPに掲載する。	②地域貢献活動をのの様子を6記事HPに掲載することができた。	(所見) 年間計画に基づき、地域施設での環境整備活動（7月・12月・1月）を計3回実施できた。加えて、当初は年1回予定していた薬王寺でのお接待活動も、予算面の調整により計3回実施でき、活動機会を拡充できた。活動の様子はHPに計6回掲載し、目標（年4回）を上回って地域への発信、啓発につなげることができた。継続的な地域貢献活動を通して、挨拶やマナー、役割分担、対人対応など社会性を育む場を確保でき、地域とのつながりを実感する学習機会となった。		
		活動計画	①-1 地域の施設に作業学習で栽培した花のプランターを置いたり、草抜きや清掃作業をしたりする活動を年間で3回実施する。 (7月、12月、1月)	活動計画の実施状況	①-1 7月、12月、1月で計3回実施することができた。	
		①-2 薬王寺において、お接待活動を年間1回行う。お茶や作業学習等で制作した作品を配布し、分校のPRを行う。 (10月)	①-2 予算の関係で1回としていたが、3回実施できることとなった。10月に2回、11月に1回実施することができた。			
		② 地域貢献活動の様子を年間で4回HPに掲載する。	② 道の駅での活動やお接待の様子を計6記事更新することができた。			
【重点課題3】 地域と連携した教育活動の推進と理解啓発	【支援課】 特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動についてアピールする場を増やす。	評価指標	①地域における教育相談を年間20回以上実施する	評価指標の達成度	総合評価 B	承認いただいた。 教育相談の回数が少なくなっている背景には、海部郡内の子ども数の出生人数が減っていることもある。 (所見) 特別支援教育巡回相談員活動においては、教育相談の実施回数は評価指標に届かなかったが、教育相談の中で、子どもの実態に応じた支援方法について提案することができた。 公開研修会においても、参加者数は評価基準に届かなかったが、アンケートにおいて「大変良かった」と答えた割合が多くを占めていた。 ホームページの更新については、各学部1回以上は記事を投稿することができ、特別支援学校における具体的な学習場面を発信することに繋がった。
		②地域の教育関係者や保護者等が50名以上参加する公開研修会を計画する	②8月8日（金）に特別支援教育公開研修会を実施し、来校による参加12名、リモートによる参加29名の計41名が研修に参加された。			
		③本校の授業の様子をホームページにアップする（更新5回以上）ことで、教育活動の発信と啓発を図る。	③ホームページにアップした回数は以下の通りである。 小学部：1回（算数） 中学部：1回（国語） 高等部：3回（園芸・手工芸・美術）			
		活動計画	①案内チラシの配布や、各園各校の特別支援教育コーディネーターとの連携を通して、巡回相談の積極的な活用を働きかける。	活動計画の実施状況	①保育園やこども園、小学校を対象として教育相談を実施した。	
		②案内チラシの配布や地域連携協議会等で広報を積極的に行う。	②地域における教育関係者や各関係機関に向けて、案内チラシによる広報や、地域連携協議会等での直接的な呼びかけを行った。			
		③教科学習等の授業の様子をホームページにアップし、校内の様子が具体的に伝わるようにする。	③各学部の授業の様子や、その授業における目的を、ホームページを閲覧した人に具体的に伝わるよう配慮した。			

【備考】：「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、B：概ね達成できた、C：達成できなかった